

平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)  
1 対 1 対談(南伊勢町)会議録

- 1 . 開催日時 : 平成 26 年 9 月 2 日 ( 火 ) 11 時 00 分 ~ 12 時 00 分
- 2 . 開催場所 : ふれあいセンターなんとう 多目的ホール  
( 南伊勢町村山 1132 - 1 )
- 3 . 対談市町名 : 南伊勢町 ( 南伊勢町長 小山 巧 )
- 4 . 対談項目 :
  - ( 1 ) 廃船の処理にかかる新たな支援制度の創出について
  - ( 2 ) 南伊勢町バイオマス発電事業と 6 次産業化に向けて
  - ( 3 ) 国道 260 号の整備および幹線道路にアクセスする県道の整備について
  - ( 4 ) 南部地域活性化について

5 会 議 録

( 1 ) 開会あいさつ

知 事

皆さん、おはようございます。今日は、平日のお昼前の大変お忙しい時間にもかかわらず、このようにたくさんの皆さんにお越しをいただいて、1 対 1 対談を開催できることを心からうれしく思います。

小山町長におかれましても、お時間をつくっていただきましてありがとうございます。

例年、南伊勢町の小山町長との 1 対 1 対談は役所でやらせていただくことが多いので、今日は油断してきましたが、そしたら、たくさんの皆さんがおられたので少しびっくりしましたが、今日、皆さんが来ていただいて、町長とお話させていただいて、いろんな南伊勢町に関わる課題を議論させていただきます。それを半歩でも一歩でも前に進めていけるような議論ができればと思っています。いろいろ難しいこともあって全部が全部 OK というのもなかなか難しいところもありますが、とはいえ、町民の皆さんにとって前進したなというようなことが少しでも感じられるような有意義な時間としたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

さて、南伊勢町では、先般、国のほうで成立いたしました「国土強靱化法案」に関する計画のモデル地域として、国全体でも 7 つか 8 つぐらいしか選ばれない中で、南伊勢町が選ばれることになりました。県もしっかりとサポートさせていただいて、本当に南伊勢町の皆さんの命を守ることにつながる取組にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、昨年、好評であったサニー市も、今年も 12 月にやっていただくと聞いておりますので、町民の皆さんがそういうことを通じて元気いっぱいになっていただくことを心からお祈り申し上げたいと思います。

それでは、本日、よろしく申し上げます。

#### 南伊勢町長

皆さん、おはようございます。知事さんには遠いところをお越しいただきありがとうございます。

毎年、狭い会場で知事さんと2人で少数の職員で今まで対談をさせていただきました。これは本当にもったいないと思ひまして、有名人の知事さんですので、まず皆さんに見ていただくことが一番大事かということで、こういう広い会場を準備させていただきましたところ、南伊勢町、全部知事さんのファンですが、特に精鋭の方が今日はお集まりをいただきました。本当に皆さん、ありがとうございます。

また、ここ数日、南伊勢町では毎日、曇り空で雨が続けていましたが、知事さんも本当に良い天気も一緒に持ってきていただきましてありがとうございます。今日は本当に清々しいいい天気の中で、知事さんに現地を見ていただいて、南伊勢町のことを一緒に考えていただける機会をつくっていただいて、本当に感謝をしています。今日はどうぞよろしく申し上げます。

## (2) 対 談

### 1 廃船の処理にかかる新たな支援制度の創出について

#### 南伊勢町長

南伊勢町は町内の津々浦々に漁港がありますが、南伊勢町は本当に残念ながら人口減少がずっと続いていまして、漁業従事者の方々も平成になって半減をしています。また、60歳以上の方が、現在、6割程度になってしまいました。

そういう中で、どうしても各漁港に廃船が残ってしまう。廃業される方、又は高齢でどうしてもできないということで、これが多く残っていているのが現状です。

この廃船につきましては、過去からいろいろな問題があるわけですが、現在、放置されているのが南伊勢町の漁港に162隻もあります。これを今、港内の環境整備、漁業振興、あるいは、もしこれが沈没してしまった場合に油が流れ出すこともありますし、また、今、危惧される南海トラフ地震で津波がもし来た場合に、これが漂流物となって家屋へ押し寄せて二次災害を引き起こすことが危惧されます。そういう廃船をなんとか処理をして、実際の津波のときに漁業者の方々が早く港湾内に入ってくる、そして避難できる、そういうことを確保していく必要があるということで、国ではいろんな廃船処理の補助制度がありますが、なかなか規模が大きすぎて、南伊勢町の各漁港ではなかなかそれが活用できない状況にあります。

現在、各漁港は県営漁港が2港ありまして、町営漁港が8港、そして、地方港湾の管理の漁港が6港あります。全部で16港ありますが、そこで162、それ

それぞれのところで事情は違いますが、162隻のこういう放置漁船があります。

これを国の制度でいきますと、1漁港で20隻以上の廃船の処理となると、国の補助金が3分の1の補助ですが、こういう補助をいただいて、そして、町とか漁港、漁協、そしてまた、もちろん所有者の方がこれを処理するのが当たり前のことですが、なかなか所有者の方もそういうわけにはいきません。

ということで国の制度がありますが、これを20隻以上というのは、南伊勢町の16港もある中で、なかなか各漁港そういうわけにはいきません。そういうことで小さな漁港が多数存在する当町については、この国の基準を満たすことはできないので、県において新たな廃船処理支援制度の創出をお願いしたいと思います。これは国の制度、県の制度、町の制度ということで、規模に応じてやっていくということで、なんとかこれをお願いして、そして、港湾の環境整備に努めたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

## 知 事

今、町長から言っていたいただきました廃船の処理については、確かに誰も使わなくなった船がああいう形で残っていると、仮に大きい津波とかが来たときに、それが皆さんの避難の場所をふさいだり、あるいは、それが人家のほうに行ったりして被害を及ぼすことがあり得なくもないわけですので、ああいう廃船をしっかりと処理をすることは非常に大事なことでと私たちも思っています。

そんな中で、全体162で、迫間と相賀と古和ですか、32、25、70というところがあります。これは多分国の補助要件を満たすと思われるので、南伊勢町さんと一緒に相談させていただいて、国の補助制度を受けられるか検討をさせてもらって、なんとか受けられるように我々も支援をさせていただきたいと思います。そうすると、3つ足すと125なので、162の大体8割方、処理ができるということになりますね。その残りそれぞれの浦で少しずつあるものをどうするかということですが。

県で新しい制度をと町長がおっしゃっていただいて、そういうのができれば一番いいのかもしれませんが、県内のほかの町で自分のところの町費でやっていただいているところもあるので、自分のところで先にやっていただいているところがあるのに、南伊勢町のが出てきて県で支援制度をつくった。それなら今まで自分たちでやってきたことはどうなるのかというようなことが、そういう不公平感があるといけないと思いますので、できれば、まずはこういうわずかなのをまとめて20隻を超えたら制度の適用になるとか、そういうような補助制度の拡充みたいなことを国へ働きかけをして、そして、状況を見た対応を考えていけないかと思っています。

あと、民間の団体で『日本マリン事業協会』がやっている「FRP船リサイクルシステム」というのがあるようですので、そういうのも活用できないか、

一緒に南伊勢町と相談をさせていただければと思っております。

いずれにしても、皆さん住んでいただいているところにああいう船が残っていると、今、観光にも力を入れていただいている中で、景観上もあまりよくないし、津波などが襲来したときの被害を考えると、町民の皆さんも心配に想われると思いますから、今言ったような形で、まず8割方をしっかり補助をもらえるように南伊勢町さんと一緒になってやっていくことと、ほかのもまとめて対象にできるような制度変更のお願いを国と一緒に検討をさせていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

### 南伊勢町長

ありがとうございます。私もこの今の漁港については、県の審査、そして、町ももちろん一緒にやりたいと思いますし、それと、漁業協同組合がほとんど全部一緒です。古和浦漁港は違いますが。ですから、国の制度は1漁港あたりとなっているところが制度の問題だと思います。ですから、漁業協同組合としては大きいものがありますから、南伊勢町だけにとどまりません、もっと大きいところがありますが、そういうふうに全部まとめてできるような支援策も大事だと思いますので、これはぜひ国に伝えさせていただきたいと思います。私もそのところは次にお願いしようかと思っていたので、ありがとうございます。

### 知 事

今、町長おっしゃっていただいたように、漁港単位というのが一定の理屈があるにしても、一つの漁協ですから、漁港単位はいいですが、漁協単位もいいではないかというのは一つのアイデアだと思いますので、そういうことで国への働きかけを一緒にさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

## 2 南伊勢町バイオマス発電事業と6次産業化に向けて

### 南伊勢町長

今、南伊勢町では、バイオマスの発電事業と6次産業化に向けてということで、農林水産省の調査事業の補助採択を8月7日に受けました。これは南伊勢町としてこれからの農業振興、今、獣害対策などに追われてますが、これからもっと新たな農業振興をしながら、また、既存のものをもっと伸ばしながら農業振興、そして、水産振興を一緒にやっていきたいと考えています。

現在、発電事業ですが、国の固定価格買取制度ができて、メタンガス発電はかなり高価な買取制度になっています。そこで、この事業を起こしまして、鶏糞と町内に発生する家庭の生ゴミ、あるいは、干物など水産加工の産業が多

くありますので、そういうところから出る残渣(ざんさ)、そういうものを全部メタンガス発電に使えるということで、それらをゴミとしてより資源として有効活用できるということになります。この資源を活用して発電して、そして、発電による収入ももちろんありますが、その発電による収入によって、例えば太陽光発電の補助をもっとするか、あるいは産業振興に使う、そういう町内の活性化に努めることに使いたいということと、もう一つ、発電の結果、メタンガスを取った残りが液肥として残ります。これが非常に有効な肥料になりますので、その肥料を使って町内のいろんな産業、果樹栽培が非常に盛んですので、そういう果樹、あるいは、米、飼料米などの米にも使えますし、青ネギの栽培もこれから南伊勢町でしようと思いますが、南伊勢町は温暖な気候ということで青ネギが他の地域よりも真冬に作れるという利点があります。それをもっと進めていきたいと思しますので、そういうときに、この肥料が使えることになります。

また、メタンガス発電のファンドを募って、そういう配当として南伊勢町の特産物、氷温加工品も含めて、そういうものを配当として贈りたい。これも町内の産業振興にもなると考えます。

それと、廃熱を活用して南伊勢町ではハウス栽培で温室みかん等をやっていますが、そういうものに活用できるということで、これから6次産業化、新たな産業がもっと広がるのではないかと思います。

一番私が期待するのは産業振興と、もう一つ、南伊勢町で水産業が盛んですが、そこから出る残渣が産業廃棄物として処理される。また、南伊勢町ではどうしても魚を食べる家庭が多いんですが、そういうところから出る生ゴミが全部町の焼却炉で焼却していますが、これも古い施設で、そして、現在、能力もいっぱいです。それを生ゴミだけでもこういう資源に使えると、焼却炉がもっと延命できるということで、町としても非常に環境・観光にこれから期待できると思います。液肥の販売もできますし、そして、バイオになるということで、なんとかこの事業を進めたい。

そして、現在、8月の終わりのほうですが、農水省のほうに「バイオマス産業都市構想」というものを提出しておりまして、これが認められれば、そういう事業が進められることになりますので、ぜひ、県のほうもこの6次産業化、農業振興、いろんな新規作物のご指導や水産業のご指導、そして、こういう経営に対するいろんなご指摘をいただければありがたいと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 知 事

いろいろクリーンエネルギーと言いまして、石油や石炭で発電すると二酸化炭素が出るので、温暖化によくないと。なので、太陽光や風力、こういうバイ

オマスをやったらいいと、国の二酸化炭素が出ないものとしてやったらいいと  
というようなお話がずっと最近ありますね。この10年20年あります。

温暖化になれば、最近も今年もそうですが、ゲリラ豪雨みたいな急激な雨が  
いきなり降ったり、あるいは竜巻みたいなので怖い思いをしたりというのがあ  
りますので、そういうクリーンエネルギーは大事ですが、特にその中でも太陽  
光や風力発電というのは、太陽光はパネルを置いて太陽の光が来たら発電され  
るといふものです。風力発電も風力のプロペラを置いて、風が吹いたら発電で  
きるといふようなことで人手があまりかかりません。

でも、このバイオマスというのは、この生ゴミもそうですし、木質バイオマ  
スといって間伐材を細かく砕いて発電するのもそうですが、人手がかかります  
ね、手間暇がかかる。だから、そこに雇用が生まれる、働く場が生まれるとい  
うことで、そういう意味でバイオマスはクリーンエネルギーの中でも特に働く  
場を生むということで重要視されていますし、県としても力を入れていこうと  
思っているところです。

特に南伊勢町、この南部地域、人口減少の問題、あるいは、若者の定住化を  
考えると、働く場がないと若い人たちも定住しないというのがあるので、こ  
ういうのをいろいろ駆使して働く場をつくっていただく取組は非常にすばらし  
いことだと思っておりますので、県としてもまず農水省のバイオマス構想がい  
けるように応援をさせていただきたいと思っております。

そんな中で、先ほどおっしゃっていただいたいくつかの件ですが、生ゴミを  
使ってとか、肥料を作ったりというお話がありました。

三重県では平成24年度から鳥羽志摩地域、特に旅館が多いので、ホテルや  
旅館から出た調理屑や事業系の生ゴミを資源としてメタン発酵発電というの  
を事業化できるような、地元の人や学者さんに入ってもらって、今、検討を進  
めています。ですので、そういうところで出たいろんな知識や経験、うまくい  
くような手法、コストの低減化について、2年ぐらいやっていますので、一定  
の成果が出ていますから、そういうのをぜひ提供させていただいて、この生ゴ  
ミの部分や肥料を作ったりする利用の部分のについて、成功していけるよう  
なお手伝いをさせていただければと思っております。

農水省のバイオマス都市構想というのをやっていただくのに加えて、構想を  
作ったら、ここに書いていただいているようなことを含めて、どんなアクショ  
ンを取るかという行動計画や実際にプラントをいつまでに造ってとか、アクシ  
ョンプランを作っていくかといけないと思いますが、そのアクションプラン  
を作るときに、三重県のほうで平成24年度からだったと思いますが、「新エ  
ネルギー町づくり促進事業費補助金」というのがありますので、それを活用し  
ていただくと、農水省に認められたうえで、さらにアクションプランを作って  
いくためにいろんな事業ができると思っておりますので、そういうご活用もぜひサ

ートをさせていただきたいと思っております。

生ゴミの分別収集や資源化についても、平成 17 年から 22 年、三重県ではゴミゼロ社会実現プランでいろんな取組をやってきましたので、その情報提供もできると思います。

さっきおっしゃっていただいたエコ商品ですね。これは今や世界的にもものを作るときに、例えば、ペットボトルとか、パソコンとかだけではなくて、養殖業をやるときや林業で木を切り出してくるときも、いかに環境のいい作り方をするかというのが、世界的に当然のトレンドになってきてまして、そういうのを認証する世界のいろんな機構もありますので、こういう形でものをつくるときに、みかんを作るときになるべくCO<sub>2</sub>などを出さずに環境にいいやり方で、ゴミを出さずに、また、ゴミを出しても、もう一回発電に回せばいいので、そういうのが世界的な当然のトレンドと言われているので、こういう取組は非常に我々としてもすばらしいと思っています。

最近言われているのは、東京オリンピック、パラリンピックが 2020 年に日本に来ます。そういう環境にいい作り方をしたものしか、世界においては食べないことが最近多くなってきているので、せっかく日本に来て、魚の養殖で環境にいいやり方をしてないものは、海外のそういう人たちが食べないかもしれないという話が最近あって、それはいかんというか、せっかく日本に来てもらっているのに日本の魚や野菜や米を食べてもらわなければというので、そういう認証を環境にいい作り方を進めていこうという話もありますので、そういうのを県もしっかり研究をして、南伊勢町さんや県内の市町さんとも共有させていただきたいと思っています。

それから、6次産業化については、県も「三重県6次産業化サポートセンター」というのを作って、具体的なそれぞれの取組をサポートさせていただくような準備をしていますので、ぜひ、そういう制度をご活用いただければと思っています。主には研修会をやったり、あるいはアドバイザーを派遣したり、あとは、6次産業化なので1次産業の生産者の人と加工業者の人をマッチングしたりとか、あるいは、交流会をしているような取組方のヒントを学んでもらう場というのもやっていますので、ぜひご活用いただければと思います。

## 南伊勢町長

ありがとうございます。それと、もう一つ、ここに先の話になりますが、防災にこのメタンガスが使えないかと。例えばメタンガスで走る自動車とか、そして、二次避難所にこのメタンガスを発電の燃料に使うことができないかということで、ここも一緒にこれからの話ですが、進めたいと思います。南伊勢町、どうしてもいろんな施策を、この強靱化計画もそうですが、そういう防災の対策をしないといけないということからも、そういうことも一緒にやっていき

いと思います。どうぞよろしく申し上げます。

## 知 事

今の話は大変いい話ですね。私が知事に当選させてもらって、すぐ東日本大震災の宮城県に行かせてもらいました。そのときに宮城県の村井知事とお話をさせてもらって、まず何が大事ですか、何に困りましたかと聞いたら、電気と情報と言われるんです。電気と情報と。最初にとにかく電気がないと復旧作業ができないし、命を長らえることもできない。情報をしっかり集めることができないと、正しい復旧計画はできない。電気と情報とおっしゃってました。

そういう意味では、今、町長がおっしゃっていただいたように、防災拠点で避難していただくところや、あるいは、復旧を進めていく拠点になるところにメタンガスを使って電気を起こして、仮に長期間、電力会社が停電になっていても、常にどれだけ被災していてもゴミは出ますから、それを使って電気を確保して、それを防災に回していくことは非常に良いことだと思います。

近々の議会にも出すことになるとは思いますが、「グリーンニューディール基金」という国の制度があって、いろんな防災拠点にクリーンエネルギーを使っていこうという国の基金を、県においても予算を獲得することができましたので、そういう基金を県にも作っていこうと思っておりますが、まだここまでの先進的なものは対象になっていないです。太陽光ぐらいの分かりやすい単純なものが対象ですが、そういうような日本全体の防災拠点において、クリーンエネルギーを使って電気を確保するという流れになっていますから、ぜひ、我々も応援したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

## 3 国道 260 号の整備および幹線道路にアクセスする県道の整備について 南伊勢町長

3つ目のテーマということで、南伊勢町にとっては一番大切な問題とと思います。若者定住もそうですし、産業振興、そして救急、すべての生活、生産構造まで支える国道 260 号、端から端まで 55 キロメートルありますが、途中で信号が 9 個しかないですが、非常に長い道路です。この道路 1 本が南伊勢町の背骨として非常に大切な道路です。現在、6 箇所ほどの未整備区間がありまして、それを県のほうでしっかり整備していただきました。この場をお借りしましてお礼を申し上げます。この宿浦と木谷の間は大きい工事ですが、来年度に向けて開通するように今進めていただいております。

また、ど真ん中ぐらいにある南島バイパスですが、これも来年度、開通するようにということで今進めていただいております。トンネル 2 本を掘っていただける。また、国交省のほうでもこちらの錦峠のほうも工事をしていただくということで、これほど多くの工事を集中していただいていることは感謝を申し上

げます。

さはさりながら、さらにまだ2箇所ほどの未整備区間、あるいは改良が必要なところがありますので、ぜひお願いしたいと思います。この船越区間につきましては、集落地内でありながら、バスあるいは大型車両、子どもの通学路ですが、非常に危険な状況ですので、ぜひ、この区域、1.3 kmぐらいですが、その整備をお願いしたいと思います。

また、これを高規格の防災道路としていただくと、その機能を発揮するのではないかと思いますので、東日本大震災で高規格道路が、もしかすると堤防よりも津波対策は効果的だという話がありますので、ぜひ、そういうこともここで実現されるように検討をお願いしたいと思います。

また、もう一つ、通称三坂峠という区間ですが、ここは現在、一次改良をされていますが、非常にカーブの多い道で、大型車がセンターラインを割らないと走れませんし、また、トンネルが狭くて大きい車、昔よりは車が大きくなっていますので、どうしてもトンネルの中はセンターラインを踏んで走らないと通行できない。本当にここは対向が困難な道です。また、急峻な法面ですので、これの崩壊が16年でしたか、実際にあったことですが、さらにこういうところが南海トラフの地震によって崩壊することになれば、この三坂峠区間は10分ぐらいの区間ですが、崩落すれば、2時間かけて迂回しないと町内へは行けない。町外を回っていかないといけないというところですので、ぜひ、これをもう少し安全な道、できればバイパスでお願いしたいと思います。

それと、今、一番大事になっているのが、大きな津波が起こった場合、東日本で言われています「くしの歯作戦」という町外との連絡道路をどう確保するかというのが課題になっています。一番端、東のほうへ行きますと磯部町に通じる道。また、サニードロとして伊勢市へ通じる道、こちらが野見坂峠を経て伊勢市へ通じる道、これは確保されていますし、また、今、錦峠を通過して大内山インターへ行く道、これも十分整備されています。

もう一つ、この南島地域の中で、神前、村山、伊勢地、河内地区、この吉津地区という一番大きい集落が、260号は津波が来ると、海岸線を通っていますので全部孤立してしまう可能性があります。ですから、ここをくしの歯道路作戦、この道路として町外へ通じる道をなんとか整備したい。現在、大紀町のほうはずっと整備しているみたいです。ただ、この南伊勢町地内は整備されていないので、ぜひこれを、いつ来るかわかりませんが、南海トラフ地震、津波に対して有効に地域が早急に復旧ができるような輸送路、また、避難路として確保していただきますように、これは県道ですので、どうぞよろしくお願いたします。260号とすると、こういう高速道路にアクセスしていく、そういう道路の整備をなんとかこれから進めていただきたいと思いますので、どうぞ県のほうもよろしくお願いたします。

## 知 事

おそらく今年が1対1対談、小山町長と4回目だと思います。毎年、この国道260号線のことを言っていておられますので、それぐらいに町長が強い思いを持っていただいているということを思っておりますし、実際、私どもも南伊勢町に来させていただいて、この260号線を通る度に、そういう非常に防災上の重要性であるとか、あるいは、カーブの多い地点の危険なところを目の当たりにしているところで、先ほど町長がおっしゃっていただいたような南島バイパスや木谷とか、今、集中的に整備をさせていただいているところです。

そこで、今おっしゃっていただいたのは3点ぐらいあったかと思いますが、まず一つの船越地区のところは、未改良区間が全部で0.7kmありますので、これについては、地元の皆さんの意向も踏まえて、地震・津波災害に強い強じんな構造となるように、道路の構造なども配慮して、この区間の道路の整備、未改良区間を解消して、この区間の整備が地域の減災対策の一助になるようにということで、今年度、調査設計の予定をしております。なんとか早く未改良区間を解消していくということで考えておりますので、引き続き地元調整やご協力をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

もう一つの三坂峠のところですが、これは先ほど申し上げたように260号線、全体的に今いろんな整備をしています。そして、船越のところも、先ほど調査設計をやり始めるということによって申し上げたとおりです。今、事業にかかっているところをしっかりと、一日でも早く完成させることにまず力を注ぎたいと思っておりますので、そう考えますと、三坂峠のところは、先ほど町長も少し触れていただきましたが、既に1次改良をして、2車線化されていることや厳しい財政状況も考えると、抜本的な改良をするのは、260号線全体をまずしっかりとやることを優先したいと考えていますのと、1次改良されていることもありますので、抜本的ないい道路を造るのは現時点では難しいと思っておりますが、急カーブのところを少し安全にするための線形の改良とか、そういう部分的な対応を、少しでも安全にできるようにということで、町民の皆さんにもちょっとでも安心していただけるような部分的な改良については、もちろん事業中の箇所を進捗状況にもよりますが、それも踏まえながら部分的な対応は検討していきたいと思っておりますので、よく南伊勢町さんと相談をさせていただいて、どういう優先順位でどういう部分的な対応がいいのかというのをやらせていただければと思っております。

もう1つの南島大宮大台線ですが、これも町長がおっしゃるくしの歯作戦のところと幹線道路にアクセスする、あるいは町外にも逃げていけるという、すごく大事なことだと思っておりますが、かなり急峻な地形なので、あと、今、点々になっているところが多分24キロメートルぐらい

あり、延長が長いということと、かなり急峻なので工事が難しいので、そうするとお金がたくさんかかるということもありますので、まずは260号を優先させていただいて、今後の課題ということで議論を継続させていただくことができればと思っておりますので、その部分については色よい話ではなくて申し訳ないですが、まず、260号でかかっているところを一日でも早くすることと、船越地区のところは未改良区間を対象に入れて、調査設計などに取り組んでいくということで、あと、三坂のところを部分改良をできるかどうか検討するというので、よろしく願いできればと思っております。

#### **南伊勢町長**

今、非常に厳しい予算の中で、南伊勢町に県の公共事業予算の多くを注ぎ込んでいただいている状況はよく分かっております。そういう中で本当に進めていただけて感謝しています。

そういう中で、我々としても、将来の南伊勢町を考えたとき、どうしても必要な区間整備となりますので、今後、すぐと申し上げませんので、粘り強く相談しながら、また要望させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

### **4 南部地域活性化について**

#### **南伊勢町長**

今、南伊勢町は県南部地域に位置してまして、そして、今は三重県は北勢が非常に発展して、県南部は段々少子高齢化で1次産業の点で落ち込んできています。

それをどうするかということですが、県としては今までも本当に南部のほうに力を入れていただけてまして、特に東紀州のほうは、東紀州活性化ということで本当に成果も上がってきました。そういう伊勢・松阪から東紀州に至るまでの南伊勢町や大紀町、大台町、度会町というところが、松阪の近隣でありながら、産業が低迷して、そして過疎地域になってなかなかうまく活性化できないという状況が続いてきています。そういう意味では、今まで県も力を入れてくれていますが、更にこの地域の活性化をお願いしたいということで、今までもお願いしてきましたところ、平成24年度に県庁の中に「南部地域活性化局」、三重南部の活性化局をつくっていただきました。

この南部地域活性化局、今、局長に来ていただいておりますが、非常にこの地域の難しい課題、あるいは、一所懸命頑張っても、なかなか解決しにくいですが、そういう課題を一緒になって県下広域で考えて、どうしても町単位では、南伊勢町は南伊勢町、お隣の度会町ということで、どうしても町の範囲で固まって仕事をしがちで、それが本当にいいのかということ、やはり広域で一緒に協

力しながら、この地域全体が盛り上がっていかないと、本当のまちづくりはできないと。

例えば 260 号を 260 号だけではなく、志摩市から 260 号を通過して紀伊長島へ抜けていく。そして、さらに尾鷲、熊野へ行く、こういう日本にも有数の海岸線を持っている、これが 260 号です。ですから、単に我々の道の整備というだけではなく、こういうところが広域観光ルートとしてどう活用できるか。高速道路がずっとできましたが、大台町から熊野まではほとんどトンネルです。トンネルの連続で、時々明るいところがあるという高速道路で、便利ですが楽しみは少ないです。そういう意味では高速道路が通ったところに来たときには、260 号を通過して帰っていただく。伊勢志摩に来たときには、260 号の海岸線のいい景色を見て熊野へ行って高速道路で帰っていただく、こういうことになると思うと、町単独でやるというよりみんなが一緒になってやる必要があります。

そのときに県が広域で一緒になってやってくれるとみんなが集まりやすいし、一緒になって協議をする場ができます。そういうことを県は平成 24 年度からやってきていただいて、組織を作っていただいて、基金も作っていただいて、我々もそれを活用しながら事業を進めています。

ただ、なかなかそうはいいまして、南伊勢町の人口減、若者の町外流出、少子高齢化、産業の低迷、そして、南海トラフ地震の脅威、これは簡単にはなかなか我々町の中でも払拭できません。

そして、いつも知事さんにはこういうことをずっとお願いしているところですが、知事さん、本当に県南部の活性化に日頃から心を砕いていただいています。この際にせっかく来ていただいたので、皆さん大勢おいでになるので、知事さんのそういう南部に対する想いと、そして、これからどういうことを考えていただけるかも含めまして、もちろん町が頑張らなくてははいけません。そういうところを一緒に聞かせていただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。

## 知 事

今、町長がおっしゃっていただいたことと重複することもあります。少しお話をさせていただきます。

南伊勢町さんでは、正に若者の定住をということで専門の部署も若者定住対策係というのを設置してあり、これはなかなかないです。県内でも他の県でも、丸々そんな名前の係はあまりないですが、それぐらいに危機感を持って取り組んでいただいているということだと思っております。我々も感謝しています。

今、町長からもおっしゃっていただきましたが、私が元々は三重県で鈴鹿に住んでいて、知事選で出ることになって県内をずっと回らせていただく機会が増えたわけですが、当時、三重県内は東紀州活性化局というのがあって、東紀

州に対して非常に一所懸命取組支援をしていたと。

一方で南伊勢町や大紀町のあたりも回らせていただくと、やはり同様の人口減少や若者の定着が難しい。あるいは働く場をもっとつくっていかないといけない、そういう問題意識、課題を感じました。そのため、私は知事に就任させていただいて、東紀州地域だけではなく、もう少し南部地域全体の課題として捉えて、南部地域活性化局を平成 24 年度からつくらせていただきました。合わせて、その部署だけつくってもいけないということで、南部地域活性化基金という基金を作らせていただいて、それを財源に今いろんな取組を行っているところです。

しかし、それも単に一つの市町に予算を流し続けるような基金だったら、今までと変わらないので、もっと広域で複数の市や町と連携して、少し今までと違う段階に入っていけるような使い方をしてもらったほうが、新しい取組ができるのではないかとということで、そういう基金の使い方をして、先ほど申し上げたサニー市とかサニーロードを活用した取組を南伊勢町さんでやっていただいております。このほか、移住促進や企業誘致のセミナーにもその基金を使って南伊勢町さんをはじめとする複数市町が取り組んでいただいている状況です。

最近、人口減少か災害の話かデング熱かというぐらいの感じの、本当に毎日のように新聞もテレビも人口減少の話が出てきています。国のほうでやっている方法は、集落同士を結んでネットワークにして広域にして、単独集落だけでは生き残っていけないが、連携をして役割分担や協力をすることで残していこうという考え方であり、特に今年度・来年度から国は主に進めていくわけです。その考え方は既に三重県としては「南部地域活性化基金」というところでスタートしている考え方でありますので、今、国がそういうことをやろうとしていることについても、我々のやり方も間違っていなかったという思いですので、引き続き、そういうのを捕捉していくようにしていきたいと思っています。

県全体では大体大学へ行く年齢の子と就職するときの年齢の子、大体 18 歳と 22 歳のところが毎年 1 万人ぐらい転出、県外に行ってしまいます。ほかの年齢はどちらかというと転入です。今日お越しいただいている皆さんの世代とか、もう少し私の先輩ぐらいのところや私の世代だと転入超ですが、進学と働きに行くところで 1 万人ぐらい転出してしまうので、三重県は合計すると転出超です。出ていってしまうほうが多い。それだけ大学進学するのと働くことで県外に行ってしまう。それで帰ってこないケースもある。もちろん帰って来てもらうケースもありますが、帰ってこないケースもあるので、人口減少に拍車がかかってしまう。

これはいけないということで、三重県としては、まず、学ぶ場、働く場を増やしていくか、あるいは、魅力をもっと知ってもらったり、魅力を向上させて

いこうということと、働く場が一番重要ですが、働く場をつくって、一回出ていった人が戻ってこられる、あるいは県内で進学した子が働ける場をつくっていこうということで、それをどうすればいいのかというのを、今年度、特に集中して議論をさせていただいております。それを来年度に向けて反映をしていきたいと思っておりますし、そういう考え方で今現在、進めているところです。

それから、各集落を結ぶ取組には人づくりが大事だと思います。何か大きい建物や箱物を建てるよりは、地域で頑張っていく人を育てるという部分に県としてもしっかりサポートしていくことが大事だと思っておりますので、そのような形の取組をこれからも進めていきたいと思っております。

あと、私、国の少子化対策の委員もやらせていただいておりますので、今の人口が減るのは、働いたり学びに行ったりする社会減という減少と、子どもが生まれる数が少ないという自然減の両方がありますが、両方の対応をしなければなりません。社会減のほうは今申し上げたようなことで、自然減は少子化対策というのを去年から力を入れて今取り組んでいるところです。

これも人それぞれのライフスタイルなので、押しつけはいけないんですね。子どもを産め、子どもを産めだけの押しつけはいけないと思いますが、三重県で調査をしますと、理想の子どもの数が2.5人、“.5”というのはないので、2人から3人の間というのが理想の子どもの数ですが、実際は1.7なので、“.7”はありませんから、1人から2人の間ということで、理想と現実にギャップがある。本当は子どもがほしいが子どもを産めない、育てられない、そういう状況にあります。

なので、その希望をかなえることに重点を置いていこうと。本当は結婚はしたいけれども、働く場がなくて、あるいは収入が十分がないので結婚できない。あるいは、結婚をしたが、その年齢が遅かったので晩婚化と最近言われています。晩婚化なので、当然出産も晩産化、結局体の関係で子どもが産めないと。あるいは、国、今、全国の夫婦の6組に1組は不妊治療をしていると言われておりますが、その不妊治療にはお金もかかりますので、その不妊治療の予算も助成をしていこうとか。

あと、最近是不育症というのがあります。何かと言いますと、妊娠はするが、2回以上流産をしてしまうのを不育症というんですね。育たないということです。そういう人が治療を受けるための助成をしていくとか、そういう希望がかなうように、理想とする子どもを得られるように。

そして、あとは1人目から2人目にいくときに大事なことが2つぐらいありますが、そのうちのひとつが男性が育児や家事をちゃんと手伝うと、2人目ほしいと思う率が高いらしい。今日は女性の皆さん、多いにうなずいていただいておりますが、そういう統計データが出ていますので、男性が仕事もしっかりやるけれども、そういう家事や育児も手伝うようなことをやっていこうということ

とか、そんなことで今、少子化対策も進めています。いずれにしても、人が人を呼び込むというのがありますから、人が減っていくのは地域の活力を失っていくことになりかねませんので、そういう意味で人口減少、社会減、自然減、しっかり対応していきたいと思います。

### 南伊勢町長

ありがとうございます。確かにこういう南伊勢町を含む近隣は、そういう意味では少子化、人口減少、そして、流出、高齢化が本当に深刻な地域です。そういうところを一番大事なのは、知事さんが今言われたように、きめ細かなそういう子育てに通じる、また、若い人たちが、いろんな場合があると思いますが、そういうところをサポートできる体制が必要だと思います。そういうことに対しましても、町も一所懸命頑張っていきたいので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、ハード整備のようなことばかり要望させていただきますが、それも大切ですが、さらに大事なのは、この地域で人が人としてきちんと生活できる、そういうソフト事業を築き上げていくことも大切だと思います。

どうぞ、今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 知 事

今回のバイオマスもそうでしたし、去年の障がい福祉の話、あと、ワインの話もいろいろしていただいて、本当に小山町長が、あるいは南伊勢町の役場の皆さんが、とにかく働く場をつくることにいろんな知恵を働かせて取組をしていただいていることに、いつも感心しておりますし、そういう働く場をつくることに対して、県としても南部地域活性化局を中心に応援をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### (3) 閉会あいさつ

#### 知 事

皆さん、長時間にわたりありがとうございました。ちょうどお腹も減ってきたころだと思いますので、お昼前に町長と私のお話を聞いていただいて感謝申し上げます。

先ほども申し上げましたが、やはり働く場をいかにつくっていくかということが大事であるということと、少子化のところでも申し上げましたが、希望がかなう、少しでも希望がかなう。妊娠出産後だけでなく、希望がかなわない地域には住みたいと思わないと思います。住み続けていただく、住みたいと思っていただくためには、やはり希望がかなう、少しでもいろんな希望がかなう場所である、地域であることが大事だと思っておりますので、これからも南伊勢町

が少しでも希望がかなう地域になるように、また、三重県が希望がかなう地域になるように、これからもしっかり頑張っていきたいと思いますので、町民の皆さんのご協力をぜひとも、今日は議長をはじめ町議会の皆さんも来ていただいておりますが、議会の先生方のご協力もいただいて、皆さんと一緒に頑張っ  
てまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

本日は、どうもありがとうございました。